

＜全体分析＞

試験時間 120分

解答形式

客観式5個, 記述式4個, 論述式9題* (175字×1, 150字×2, 125字×5, 100字×1 計1200字)
*うち客観式や記述式を含む論述式が4題

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

昨年度は無かった客観式と記述式が出題されたが, いずれも論述式に含まれるため, 全体としての分量は昨年度とほぼ同じであった。また, 教科書だけでなく, 新聞などのニュースにも注意しないと解答の方向性が見いだせないような新しい話題からの出題が, 例年どおり今年度も見られた。

出題の特徴

課題文を読ませたり資料(図表など)を読み取らせたりする出題形式は例年どおりである。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択式 記述式 論述式	環インド洋地域	問1～問3の客観式と記述式の部分は, 全問正解しよう。問1は, フェアトレードの説明から一歩踏み込んだ解答が必要である。問2は, 下線部分からASEANに気づくかがポイントである。問3の外交問題は, 頻出のカシミールについては必ず触れるようにしよう。	標準
II	記述式 論述式	国境を越える人の移動	問1の訪日外国人数の増加は, 近年頻出の話題であり満点を取りたい。問2のベトナム人労働者の増加は難しい。問3は, 問1に付随してよく取り上げられる話題であり, 高得点が可能である。	標準
III	論述式	イギリスの都市再開発	問1は, 設問文に従いa, b, cの各地域について丁寧に説明しよう。問2は「施策は中心部に住む富裕層への恩恵が大きい」がポイントである。問3は「クローン」の語句と写真から「同質化」にたどり着きたい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

1. 近年は高校地理で学習する知識で対応できる問題が増えているが, そのレベルから一歩踏み込んで考える習慣を身につけておくこと。また, 難解な文章が多いので, 正しく読み取る訓練をしておこう。
2. 地域では, 東～南アジアやアフリカを中心とする発展途上地域が, 分野では, 農業, 鉱工業, 貿易や交通・通信, 観光関係が, 一橋大学入試の頻出テーマである。
3. 100字前後のコンパクトな論述練習を積むとともに, 今年度は出題されなかったが200字以上の論述の訓練も行っておくこと。文章作成能力も重要であり添削指導を受けることが望ましい。
4. 統計資料を判定する訓練を行うとともに, 資料の中から「ポイントとなる部分」を早く見抜く能力を養っておこう。また, 統計と地図を結びつけて体系的に捉える練習をするとよい。
5. 歴史教科書や新書などを利用して, 一橋大学入試でよく問われる近代の史実も学習しておくことよい。また, 白書・新聞などを活用し, 新しいテーマや話題についても理解を深めておこう。